

長寿園理念

「人生の目的は円満幸福の生活にある」との信念に基づき
高齢者がそれぞれ円満で幸福な生活ができるよう所要の協力と支援を行うことによつて社会に貢献します。

【発行】

一般財団法人長寿会

小田原市入生田 475

TEL. 0465-24-0002(代)

編集 / 広報委員会

長き系に

手繰り寄せられて

入居者 中村 典子

長寿園と我が家との御縁は、

今から四〇年前、母を長寿園に入園させた後、二度程訪れ、環境の良いのと皆様の温かさに、是非ここにと強い強く勧めたが、「心細いから嫌っ！」と……。

その頃丁度A棟が建設中でした。その後、私達夫婦も母と同じ年になり共に倒れてはと、どこかに！と強く言われていた折、丁度長寿園よりのお手紙に懐かしく、すぐにパンフレットの郵送を申し込むと、担当の方がわ

ざわざ家まで持って来て下さったその時、日頃から、「どこかへ」と言っていたケアマネさんが家

から帰るところで、門の前でパツタリお会いし、引越など考えられなかったのが、だんだん気持ち傾き決心。

トントン拍子に話が進み、平成三〇年七月に善次がC棟に、九月に典子がA棟に入居しました。五〇年住み続けた家、汗と涙のいっぱい詰まった家に別れを告げるのは精神的に本当に辛

くて大変でした。

夫の善次は大正、昭和、平成、令和と九八歳、私典子は昭和三年一月生まれ。全く驚く程の年になり、振り返ってみると戦前、戦中、戦後、その後の平和な日本の階段を三段、四段とびで戦後の復興から高度成長へと夢のようにでした。

仕事は会社務め、後に自分で会社をつくり独立。考えてみますと、人生ずーっと、走りつ放し。微力でも日本の経済を支えてきた一助にでもなつたかしらと思つたりしてしまいます。夫の趣味は六〇年続いたゴルフに囲碁と自動車の運転。事故がなくて良かったです。

後半は二人で世界旅行を楽しみました。随分勉強になり、又

色々面白い経験をしました。

スイスの氷河特急の食堂車での食堂チーフの手違いで、典子一人が列車の外に取り残され、目の前を大きな大きな汽関車の車輪が回って、遠く特急に茫然として体中が震え、それが暫くは止まりませんでした。でもタクシーで特急を追いかけてくれて、それは死ぬかと思う位の猛スピードで途中止まることなどない特急が、途中の駅で止まって待っていてくれ、ホームの階段をやつとの思いで登って行くと、丁度ツアーの人々の乗つた車の前に着いて、バンザイ、バンザイと、カンコの声に迎えられる、嬉しいやら、恥ずかしいやら、感激でした。

又、ハンガリーではロシアへの独立戦争で負けた時の建物に、まだ残っていた赤い星のマーク等を一所懸命カメラに納めたりしていた所、スパイに間違えられたのか、一人なかなか出国出来なかつたりでした。それでも

【次のページへ】



中村様ご夫妻

夜のサグラダファミリアでは、水辺に写る光る写真が、日本の公募展に入選し、やれやれで嬉しかった事、怖かった事、色々でちよーっ楽しかったです。二人三脚で共に辛い事、楽しい事を走り続けた六八年。去年は孫も結婚し、いつ曾おジイ、曾おバアになれるでしょうか？夢はまだ続きます。

これからは夢の国長寿園でゆつくりと心と体を休め、皆様と仲良く、色々とお世話になる事と思いますが、よろしくお願致します。

短歌

故里の力士遠藤横綱を
倒せし技に歎声あがる
鈴木 芳子

犀川に加賀友禪を洗いをり
職人技にしぼし見とれり
松本 正子

庭球といわれた頃に励んでた
九七歳今も歩ける
田川 富子

駅降りてパスモを探す妹と
脱いだ手袋探してる姉
小池 怜子

マイク口の車窓から見る「種秀」へ
忍者二名は今忍び中
——「種秀」最中の皮を作る老舗——
小池 怜子



俳句

柿噛んで歯にも感謝の九十路
松本 正子

雪しきり母の墓前に立ち尽くす
晶子あり百合子あり霏霏と
柴田 富子

こころざし半ばで閉じぬ
年の暮れ
鈴木 千秋

川柳

転がった薬見つかる大掃除
散るモミジ八つ手の上で一休み
田川 富子

悠久の昔へ誘う笙の笛
年一度市の検診という関所
小池 怜子

囲碁の魅力

入居者 三好 良夫



囲碁は面白いゲームである

白黒の石を小さな盤におくだけで勝負になるのかとよく聞かれるが、白黒交互に打つほどに石が意味をもち、さまざまに変化し、大きな勝負になるのである。その変化は変幻自在で、打ちまわしの巧拙で勝敗が左右される。そこに囲碁のおもしろさがある。

囲碁の歴史は古く、正倉院の御物の中に聖武天皇遺愛の碁盤があるのをみても、その歴史がわかる。

戦国武将もよく碁を打つらしい。ある戦の陣中、二人の武将が碁を打っており、合戦が近づき軍議の召集がかかってもやめない。周りが気遣っても「もう少し待て」と言っていて、いつまでも打ち続けたという話がある。

それほど熱中する。打ち出すと、周りのことは耳に入らなくなるのである。

長寿園では同好の士が集まり、週一回(水曜日)ラウンジで碁会を開いています。関心のある方は見に来て下さい。碁は初めてという方も歓迎します。園ライフのゆしみがひとつ増えるかと思えます。

いくつになっても、指先さえ動けば、楽しく遊べるのが囲碁の魅力です。



小田原文学館別館

ちょっと旅気分

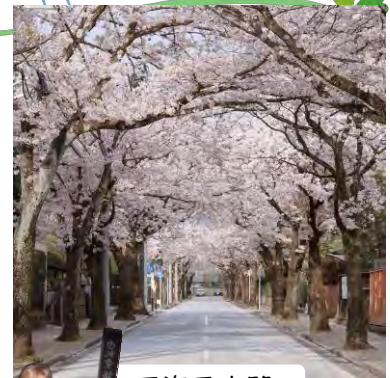
「白秋童謡館」

職員 中島あけみ

今回は、日本に童謡という新しいジャンルを開いた北原白秋の「白秋童謡館」を訪ねてみました。

園のマイクロバスで箱根口下車、国道を渡りセブンイレブンの横に入り五分ほど歩いた場所に小田原文学館の別館としてあります。この辺りは昔武家屋敷だった面影を現在でも残しており閑静な趣を感じさせてくれます。白秋は大正7年から大正15年までの8年間を小田原で過ごし、この間に全童謡作品の半数近くを創作しています。(「赤い鳥」「この道」「からたちの花」「あめふり」など)

童謡館の前の西海子小路(さいかちこうじ)には両側に桜並木が続き、この季節は春の香りと歴史を感じながら散策してみたいかがでしょうか。



西海子小路



白秋童謡館

ロングコースは横浜三溪園を散策し、中華街で昼食。皆様お目当てのお店に行かれ楽しまれていました。ショートコースは江ノ島水族館へ！イルカのショーでは大きな水しぶきと共に歓声が上がっていました。海の幸の昼食後は、江ノ島神社へ参拝される方や、富士山の絶景を楽しみながら、カフェでのんびりされる方など、皆様、満足しているようでした。職員 松本伸子

長寿園の日々

令和二年
 一月一日 初顔合わせ
 一月二日 どんど焼き
 一月二六日 ロングコース
 二月四日 ショートコース
 二四日 クリスマス会食

秋の行楽ショート・ロング



秋の行楽ショート・ロング



クリスマス会食



初顔合わせ

初顔合わせ

「夢」の編集担当が変わり三回目の発行となります。「読みやすさ」や「読みやすさ」などはいかがでしょうか？何か至らぬ点がございましたら遠慮なく事務所までご意見をお寄せください。

編集後記

新年会



どんど焼き